

日本陸上競技連盟からのお知らせ

目 次

■活動報告

第90回理事会報告

2024年3月26日(火)にJAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 会議室にて第90回理事会を開催致しました。

栄養セミナー2024 報告

2024年4月7日(日)に日本陸連栄養セミナーを「高校生・大学生陸上競技選手の栄養補給について考える」というテーマで、ウェブ開催致しました。

2023年度陸上競技研究紀要について

2023年度陸上競技研究紀要を発刊しました。

第108回日本陸上競技選手権大会「みんなでつなごう!

3Rのバトンプロジェクト」実施概要

皆さまからご不要になった衣料品を回収し、次の未来につなげることで、衣類ロスと廃棄物の焼却に伴うCO₂排出量を削減します。

■大会観戦ガイド

第108回日本陸上競技選手権

兼パリ2024 オリンピック競技大会 日本代表選手選考競技会

第40回U20日本陸上競技選手権大会

兼リマ2024 U20世界陸上競技選手権大会 日本代表選手選考競技会

ホクレン・ディスタンスチャレンジ2024

第108回日本陸上競技選手権大会のプロモーションビデオ第二弾公開!

■事務局からのお知らせ

東京2025世界陸上 大会ロゴが決定!

安全ナビ 陸上競技安全対策ガイドブック

～重大事故にあわない・起こさないために～

第108回日本陸上競技選手権大会のプロモーションビデオ第二弾公開!

information

- ・個人情報の共同利用について

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/16577/>



- ・WRK対象競技会/広告規程について

<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/technical/>



- ・陸上競技場、長距離競走路の認定について

<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/shisetsu/>



- ・代表選手派遣大会選考要項 2024年度

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/16334/>



- ・代表選手派遣大会選考要項 2025年度

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/17671/>



- ・アンチドーピング/鉄剤注射の防止

<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/medical/>



理事会報告

第90回理事会

日時：2024年3月26日（火）13時32分～17時32分

（休憩 15時04分～15時10分）

場所：JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 3階 会議室8

【議事内容】

理事総数30名中出席者27名にて、理事会の成立を鈴木事務局長が報告。尾縣長が挨拶し、引き続き、議事進行に入る。

＜協議事項＞

1. 2024年度主要競技会日程

鈴木事務局長より資料に基づき説明があり、2024年度主要競技会日程が原案通り承認された。（本連盟WEBサイトhttps://www.jaaf.or.jp/files/upload/202403/2024_calendar.pdf参照）

2. 「利益相反管理規程の制定」及び

「利益相反管理委員会の設置と委員の選任」

清水法制委員長より資料に基づき説明があり、利益相反管理規程が原案通り承認された。また、鈴木事務局長より資料に基づき説明があり、原案通り、利益相反管理委員会規程が承認されたとともに、3名の利益相反管理委員会委員が選任された（うち1名は委員長）。（承認された利益相反管理規程及び利益相反管理委員会規程は本連盟WEBサイトhttps://www.jaaf.or.jp/pdf/about/guidelines/20240326_01.pdf及びhttps://www.jaaf.or.jp/pdf/about/guidelines/20240326_03.pdf参照）

3. 第14期事業方針・事業計画・収支予算

田崎専務理事より事業方針及び事業計画が、鈴木事務局長より収支予算が、資料に基づき説明があり原案通り承認された。

〔第14期事業方針及び事業計画〕

事業方針

未来に輝く人材育成と、感動体験の提供を目指して

◆陸上の社会的価値を高め、日本の陸上界としてあるべき姿を実現していくための戦略の柱

－ウェルネス陸上の実現－

する人、みる人、ささえる人へのシステムの展開

－人材育成－

指導者養成及びアスリート育成の社会構造づくり

－国際競技力向上－

語り継がれるアスリートの輩出と世界における日本のポジション向上

－基盤コンテンツ－

挑戦を支える組織文化や組織基盤への変革

◆重点的に取り組む課題

日本陸上競技連盟にしかできないこと＝ステークホルダーとの対話・連携＝徹底した発信＝すべてを包み込むアスレティック・ムーブメント

◇システムの安定稼働と、サービス拡充を図り、アスレティックファミリーとのコミュニケーションツールとしての活用
◇ステークホルダーとのコミュニケーション強化
◇内外への徹底した発信
◇「学校部活動の地域移行」に対応し、子供達・小中高生が陸上をする場所としての理想的な環境づくりへの支援
◇タレントプールの拡充の仕組み構築
◇アンチ・ドーピングはもとより、安全・安心な陸上の環境づくり
◇「アスリート」・「指導者」のキャリア及びライフデザインモデルの形成の支援
◇トップアスリートの輝きが人の心と社会を動かすことを目指し、 ・パリ2024オリンピック競技大会 ・東京2025世界陸上競技選手権大会 を通じて、世界で戦うトップアスリートの育成・強化

◇各競技会の目的&目標とその実現に向けた競技運営の明確化
◇アスリートが輝く場としての陸上競技場の在り方と、その実現に向けた取組みの明確化
◇スポーツ・インテグリティの実現
◇総合リスク管理経営・事業戦略マネジメントの外部人材活用・アスリート人材の参加促進
◇ダイバーシティ&インクルージョンの推進によるインクルーシブな組織文化の醸成

（事業計画は本連盟WEBサイト<https://www.jaaf.or.jp/pdf/about/rikuren/disclosure/14project.pdf> 参照）

〔第14期収支予算〕

經常収益18億2,674万円、經常費用18億2,674万円、当期經常増減額は±0円となる。

（1）經常収益

- ①基本財産運用収益は838万円。基本財産12億円に対する利息収入。
- ②登録料受入収益は2億5,538万円。登録会員からの登録料収入は、一般及び大学生が各1,000円、高校生、中学生及び小学生が各500円。
- ③加盟金受入収益は470万円。1加盟団体から10万円の加盟金を納めて頂いている。
- ④受取寄付金は1,000万円。
- ⑤受取委託金・助成金は、2億3,273万円。日本オリンピック委員会、日本スポーツ振興センターからの委託金・補助金・助成金収入。
- ⑥事業収益は12億8,132万円。オフィシャルスポンサー料と競技会での協賛金、参加料、入場料収益、放送権料等が主な収入。
- ⑦その他事業収益は3,229万円。器具検定料、競技場公認料、後援名義使用料等の収入。

（2）經常費用

- ①事業費は17億451万円。競技会、委員会、マーケティング、広報、加盟団体等への地域活性化助成金、イベント等に関する費用。
 - ②管理費の事務局運営費等は1億2,223万円。
- また、あわせてパリ2024オリンピック競技大会選手報奨金が承認された。

パリ2024オリンピック競技大会選手報奨金

1位：300万円、2位：200万円、3位：100万円、

4位：80万円、5位：70万円、6位：60万円、

7位：50万円、8位：40万円

○リレー種目の報奨金は、予選と決勝に出場した全選手を対象として、上記の半額を支給する。

○ドーピング違反等で順位剥奪となった場合、報奨金の全額返納とする。

○パリ2024オリンピック競技大会終了日より10年間の間で順位の変動があった場合、差額を支給する。

4. パリ2024オリンピック競技大会

競歩日本代表選手選考要項の改定

山崎強化委員長より資料に基づき、パリ2024オリンピック競技大会競歩日本代表選手選考要項の改定について説明があり原案通り承認された。（本連盟WEBサイトhttps://www.jaaf.or.jp/files/upload/202309/21_112516.pdf参照）

5. 東京2025世界陸上競技選手権大会

マラソン日本代表選手選考要項

山崎強化委員長より資料に基づき、東京2025世界陸上競技選手権大会マラソン日本代表選手選考要項について説明があり原案通り承認された。（本連盟WEBサイト<https://www.jaaf.or.jp/files/>

upload/202403/27_103941.pdf参照)

6. 「リスク管理体制整備計画の策定」及び

「危機管理規程の制定」

鈴木事務局長より資料に基づき説明があり、リスク管理体制整備計画及び危機管理規程が承認された。(承認された危機管理規程は本連盟WEBサイトhttps://www.jaaf.or.jp/pdf/about/guidelines/20240326_04.pdf参照)

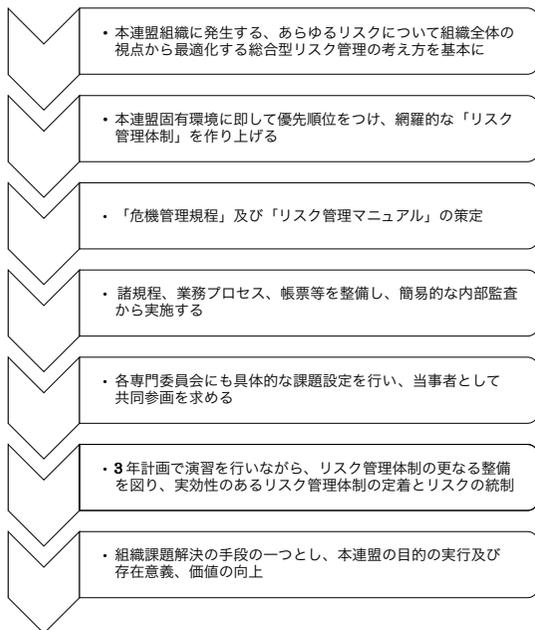
※承認されたリスク管理体制整備計画は下記の通り。

リスク管理体制整備計画

◆「リスク管理体制の整備と運用」に取組む趣旨

本連盟に発生するあらゆるリスクについて、総合型リスク管理の考え方のもとに、3年計画の初期には本連盟固有の環境に則して優先順位をつけ、リスク管理体制を整備し、組織力向上のためのガバナンス強化と諸規程を整え、運用の浸透、定着、徹底を図る。次の段階では、本連盟で発生すると想定されるリスクについて、組織全体の視点から統一的、包括的、戦略的に把握及び評価、最適化し、時代の変化をとらえ、組織の価値最大化を図る。

◆「リスク管理体制整備計画」策定方針



◆「リスク管理体制整備計画」

リスク管理体制の整備・運用の検討	2023年10月～12月
危機管理規程の検討	2024年1月～3月
リスク管理体制整備計画の検討	2024年1月～2月
リスク管理体制整備計画及び危機管理規程の提案	2024年3月理事会
リスク管理マニュアルの検討	2024年4月～6月
諸規程の改定・制定の検討	2024年7月～12月
業務プロセス・帳票等の整備・検討	2024年11月～12月
諸規程の改定・制定の提案	2024年12月理事会
簡易的な内部監査の実施	2025年1月～3月
専門委員会への課題設定・当事者としての共同参画開始	2025年4月
リスクの最適化と組織の価値最大化に向けた取り組み	2025年4月～2025年12月
組織の価値最大化に向けた取り組み	2026年1月～2026年12月

7. 2023年度表彰

田崎専務理事より資料に基づき説明があり、原案通り承認された。功労章3名、秩父宮章34名、高校優秀指導者章47名、中学優秀

指導者章47名、高校優秀競技者章47名、中学優秀競技者章47名、日本記録章延べ31名、室内日本記録章延べ10名、U20日本記録章延べ6名、U18日本記録章1名。

8. 天皇盃・皇后盃授与規程の改定

鈴木事務局長より資料に基づき説明があり、天皇盃・皇后盃授与規程の改定が原案通り承認された。

※承認された天皇盃・皇后盃授与規程は下記の通り。

天皇盃・皇后盃授与規程

- 1条 天皇盃は、全国都道府県対抗男子駅伝競走大会優勝の都道府県、皇后盃は、全国都道府県対抗女子駅伝競走大会優勝の都道府県に授与する。
- 2条 天皇盃は、全国都道府県対抗男子駅伝競走大会表彰式に授与し、皇后盃は、全国都道府県対抗女子駅伝競走大会表彰式に授与する。
- 3条 天皇盃・皇后盃は持回りとし、次回大会の開会式に返還する。
 - 2 天皇盃・皇后盃を返還した前回の優勝都道府県には、都道府県名を刻印したレプリカを授与する。
- 4条 天皇盃・皇后盃を授与された都道府県陸上競技協会は、次の各項の義務を有する。
 - (1) 当該都道府県陸上競技協会の責任において保管する。
 - (2) 破損、紛失等の場合は、当該都道府県陸上競技協会の責任において対応する。
 - (3) 展覧する場合は、警戒措置を十分に講ずる。
 - (4) 本連盟が優勝都道府県名刻印のため又はその他の必要により一時提出を求めた場合は、これに応じなければならない。

附 則

1. 本規程は2009年12月15日制定
2. 2024年3月26日 第4条の一部改定

9. 倫理委員会の交代

鈴木事務局長より資料に基づき説明があり、細倉浩司委員から伊藤弘一委員への倫理委員会委員の交代が原案通り承認された。

10. 日本陸連ロードランニングコミッション

JAAF Road Running Commission (JRRC) について

鈴木事務局長より資料に基づき説明があり、日本陸連ロードランニングコミッション JAAF Road Running Commission (JRRC) について下記が原案通り承認された。

今後のJRRCについて

2021年度からスタートしたJMCシリーズの基盤を築くことができたことから、任期満了に伴いJRRCとしての活動は終了する。今後は、強化委員会およびJMC加盟大会と連携し、JMCシリーズの運営を進めていく。ロードレースにおける課題については、JMC加盟大会をはじめとする公認マラソン大会主催者と連携し、また、有識者と意見交換をして解決していく。

今後の対応

◆JMCシリーズの加盟審査

加盟審査は、事務局で申請内容を精査のうえ加盟を決定してゆく。内容によっては、有識者の意見も取り入れて審査を実施する。

◆JMCシリーズの制度設計

JMCシリーズの制度は、MGCの開催有無とあわせて、強化委員会と連携して検討する。

◆ロードレースの安全対策

シリーズ加盟大会をはじめ、公認マラソン大会主催者や有識者と意見交換を行い、必要に応じて都度対応する。

【報告事項】

1. 代表理事及び業務執行理事の職務遂行状況

日本陸連栄養セミナー2024開催報告

医事委員会スポーツ栄養部 浜野 純

日本陸連栄養セミナーが2024年4月7日(日)にウェブ開催された。今回のテーマは、「高校生・大学生陸上競技選手の栄養補給について考える」とし、参加者は大学生・高校生の陸上競技選手をはじめ、そのご家族や指導者、また栄養サポート・医学サポートに携わる方、都道府県陸上競技協会関係者など、約150名であった。セミナー前半では、陸上競技選手に関わる最新のデータや10代選手の課題について情報提供を行い、後半は、実際の栄養サポートや世代別の栄養摂取について、具体的な提案を行った。途中、3000m障害物のオリンピックである三浦龍司選手のインタビュー(事前録画)を挟み、トップアスリートの食経験談についても触れることができた。概要は以下の通りである(敬称略)。

1. 全国高校駅伝選手の血液データにおける貧血状況/田畑尚吾(日本陸連医事委員)

貧血に関する血液検査指標の説明、2023年度全国高校駅伝の血液検査より、ヘモグロビン値やフェリチン値の結果を示し、貧血の要因や陸上競技選手におけるヘモグロビン基準値案について説明があった。持久系競技や女性選手で特に鉄欠乏性貧血を起こしやすいこと、貧血治療は医師の管理下で経口鉄剤が第一選択であること、安易な鉄剤注射は鉄過剰のリスクとなり危険であることが示された。

2. U20オリンピック育成競技者の栄養摂取状況/東郷将成(日本陸連スポーツ栄養部)

近年、陸上競技選手におけるエネルギー不足や栄養摂取不足による弊害が問題視されていることから、日本陸連スポーツ栄養部では2024年2月にU20オリンピック育成競技者を対象に食物摂取頻度調査を実施した。その結果、各競技種目別の平均値において、エネルギーは、推定の消費量よりも摂取量が少なく、鉄・カルシウムの摂取は陸上競技選手に推奨されている量よりも少なかった。一方で、たんぱく質の摂取量平均値は陸上競技選手の必要推奨量を概ね満たしていることが報告された。今後、更なる調査を行い、現状の把握とともに選手へ還元することが必要であると結んだ。

3. エネルギー不足が女性アスリートに及ぼす影響/難波 聡(日本陸連医事委員)

女性選手の無月経の状態は骨密度低下や疲労骨折のリスクが高まること、その要因としてエネルギー不足が大きく関係していることが説明された。エネルギー不足を引き起こす要因として、陸上競技選手はトレーニングによるエネルギー消費量が多いこと、食欲低下も起きやすいことなどが挙げられた。エネルギー不足については、女性だけではなく男性選手でも起こり得るとの説明もあった。特に中長距離選手および競歩選手では注意が必要であり、ドクター・トレーナー・栄養士・コーチ・保護者・選手本人との協体制の構築や、栄養状況を把握することも重要となることが示された。

4. 10代から成人年代にかけて骨量や筋量はどう変わるのか? / 田原圭太郎(日本陸連医事委員)

骨量は20代前半で最大骨量を迎え、その後に骨量の増加は見込めない。10代は骨量が高める時期であることから、この時期に十分な材料(食事)をとることが必要であることが説明された。また、身長が最も伸びた時期のあとに筋量、そして骨量の順に増加することが報告された。骨密度は中長距離選手や競歩選手で低いとの報告があるため、成長段階にある時期に、十分な食事を確保することが身体づくりにおいて重要であることも伝えられた。

5. トップアスリートからの提言 学生時代の食事で大切にしたいこと/三浦龍司選手(株式会社SUBARU 陸上競技部)

三浦選手が食事面で小学生時より大切にしていたことや、世界で戦うようになっても気にかけていることについて、自身の実体験を含めてインタビュー形式(録画)で話をしていた。中学生の時から、「3食を揃えることが大切であること」、「朝食をしっかりとする習慣」など当たり前のことがなによりも重要であり、そのうえで専門的になるにつれ、栄養の知識をつけることも大切となることをお話された。

6. スポーツ栄養の現場からの提言/澤野千春(日本陸連スポーツ栄養部)

女子陸上長距離選手が在籍する実業団チームの管理栄養士としてサポートする中で、日々健康にトレーニングができる栄養補給を行うためには、選手自身が調子をチェックして食事を増やしていくこと、「アスリートの食事の基本形」に沿って食事内容を揃えることを重要視していると講話された。また、トレーニングに合わせて、エネルギー摂取が不足しないための栄養補給計画の立案について、事例を交えながら説明された。加えて、正しい栄養情報をアクセスするために、専門家の協力を得ることも大切であることが伝えられた。

7. 学生陸上競技選手のための栄養補給のベースライン/浜野 純

学生陸上競技選手が身体づくりのために必要な栄養補給において、世代別に達成したい目標(ベースライン)を提示した。中学生世代までには、基本的な食事を定着させること、高校生は成長+トレーニング量に見合ったエネルギーと栄養素を確保すること、大学生は戦略的な栄養補給計画を立て、自己管理することを目標とし、その具体的な栄養補給内容について提案した。

今回はオンライン開催であったため、全国各地より多くの方に参加いただくことができた。医事委員会スポーツ栄養部としても、有益な情報を提供することができたと感じている。

最後は、真鍋医事委員長によるご挨拶をもって、盛会のうちに終了した。

<アスリートの食事の基本形>



アスリートの食事の基本形は「主食・主菜・副菜・果物・乳製品」が揃った食事のこと。ジュニア期からの正しい食習慣がケガをしないう身体づくりと競技力向上に役立ちます!!

Q 日本陸連のドクターや公認スポーツ栄養士があなたの質問にお答えします A

病気やケガ、コンディショニングのこと、栄養やサプリメント、アンチ・ドーピングに関することなど、スポーツドクターや公認スポーツ栄養士に質問がございましたら「medical質問箱」までお寄せ下さい。

<質問箱>



<医事委員会>



2023年度陸上競技研究紀要

2023年度陸上競技研究紀要を
発刊しました



▼詳細はこちら

[https://www.jaaf.or.jp/about/publish/
2023/](https://www.jaaf.or.jp/about/publish/2023/)

公益財団法人日本陸上競技連盟

陸上競技研究紀要

Vol.19, 2023

JAAF

Japan Association of
Athletics Federations

contents

特集企画

陸上競技における暑熱環境とパフォーマンス

原著論文

研究資料

日本陸連科学委員会研究報告

日本陸連医事委員会

エキサイティングメディカルレポート

Bulletin of Studies in Athletics of JAAF

写真提供:フォート・キンモト



JAAF × SDGs

みんなであつなごう！
3Rのバトンプロジェクト



#LETSTHINK_

使わなくなったシューズやウェアを次の未来へつなごう！ 第108回日本陸上競技選手権大会で実施決定！

〈みんなであつなごう！ 3Rのバトンプロジェクト〉

皆さまからご不要になった衣料品を回収し、次の未来につなげることで、衣類ロスと廃棄物の焼却に伴うCO2排出量を削減します。

① 日本選手権を観戦に来られる方へ

観戦に来られた方は、使わなくなったスポーツウェアやシューズをお持ちください。そして、ブースに並べている衣料品を無料でお持ち帰りいただけます。

② 物資を必要としている世界の人へ

NPO法人を通じて、衣料品を必要としている海外の人へ届けます。

③ GREEN BAG PROJECTへ

アシックスジャパン株式会社が作製しているリサイクル素材のエコバッグの一部に生まれ変わらせます。

【実施日時】

2024年6月29日(土)、30日(日) 開場時刻～競技終了まで
(第108回日本陸上競技選手権大会 ブース内)

【実施場所】

新潟・デンカビッグスワンスタジアム

【回収するもの】

スポーツウェア(上下)、運動靴、スパイク

※スポーツウェア(上下)は、ヨレ・ほつれ・シミなどがあるものでも回収いたします。

大会観戦ガイド

第108回日本陸上競技選手権大会 兼パリ2024オリンピック競技大会日本代表選手選考競技会 第40回U20日本陸上競技選手権大会 兼リマ2024 U20世界陸上競技選手権大会日本代表選手選考競技会

- ▼期日：2024年6月27日（木）～6月30日（日）
- ▼場所：新潟市・デンカビッグスワンスタジアム
- ▼アクセス：新潟駅16番線乗り場からスポーツ公園線「新潟市民病院行き」または「新潟市民病院経由曾野木ニュータウン行き」に乗り、「スポーツ公園前」もしくは「ビッグスワン前」下車。

▼種目：【日本選手権大会】

男子(17種目)：100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、110mH、400mH、3000mSC、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投
女子(17種目)：100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、100mH、400mH、3000mSC、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投

【U20日本選手権大会】

男子(18種目)：100m、200m、400m、800m、1500m、3000m、5000m、110mH(99.1cm)、400mH、3000mSC、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投(6.000kg)、円盤投(1.750kg)、ハンマー投(6.000kg)、やり投(800g)
女子(18種目)：100m、200m、400m、800m、1500m、3000m、5000m、100mH(83.8cm)、400mH、3000mSC、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投(4.000kg)、円盤投(1.000kg)、ハンマー投(4.000kg)、やり投(600g)

▼問合せ先：【日本陸上競技連盟・事務局】

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-2
JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9 階
TEL：050-1746-8410
(土・日祝日を除く10：00～18：00)

▼大会ページ：

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1831/>

▼特設サイト：

<https://www.jaaf.or.jp/jch/108/tandf/>



写真：フォート・キシモト

ホクレン・ディスタンスチャレンジ2024

▼期日/場所/種目：

第1戦 北見大会（北見市東陵公園陸上競技場）：
7/6（土）

〔男子〕1500m、3000m、5000m T11～13 5000m(※1)、10000mW(※2)〔女子〕1500m、3000m、5000m T11～13 5000m(※1)、10000mW(※2)

第2戦 網走大会（網走市営陸上競技場）：7/10（水）
〔男子〕1500m、5000m、10000m T11～13 5000m(※1)、5000mW(※2)〔女子〕1500m、3000m、5000m、10000m T11～13 5000m(※1)、5000mW(※2)

第3戦 士別大会（士別市陸上競技場）：7/13（土）
〔男子〕800m、1500m、3000m、5000m、10000m
〔女子〕800m、1500m、3000m、5000m

第4戦 深川大会（深川市陸上競技場）：7/17（水）
〔男子〕800m、1500m、5000m、10000m
〔女子〕800m、1500m、3000m、5000m、10000m

第5戦 千歳大会（千歳市青葉陸上競技場）：7/20（土）
〔男子〕800m、1500m、5000m、3000mSC
〔女子〕800m、1500m、3000m、5000m、3000mSC

※1 T11～13 のレースは日本ブラインドマラソン協会へ確認・申込すること。

※2 10000mW、5000mW は男女混合レースとする。

日本陸上競技連盟強化委員会が推薦する競技者でレースを実施する。

▼問合せ先：

日本陸連事務局 廣瀬静香/村岡紅/吉澤永一
E-mail：hokurendc@jaaf.or.jp

▼大会ページ：

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1863/>

▼特設サイト：

<https://www.jaaf.or.jp/distance/>



写真：アフロススポーツ

事務局からのお知らせ

◆◆東京2025世界陸上 大会ロゴが決定！◆◆

東京2025世界陸上財団は5月13日、来年9月13日～21日に開催を控える「東京2025世界陸上」の大会ロゴをメディアに向けて発表するイベントを行いました。イベントは、世界選手権本番の舞台となる東京・国立競技場において二部構成で行われ、第1部で、大会の象徴となるロゴが初披露。第2部では、近隣の小学生を招いて、発表会見に出席した女子やり投の北口榛花選手（JAL）と男子走幅跳の橋岡優輝選手（富士通）と交流する時間が持たれました。



▼詳細はこちら

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/19978/>



◆◆安全ナビ 陸上競技安全対策ガイドブック～重大事故にあわない・起こさないために～◆◆

陸上は、頑張った分、結果がついてくる魅力的な競技です。アスリートの皆さんは日々練習を重ね、努力されていると思います。その努力をあっという間に奪ってしまう重大事故が起きています。一人ひとりが被害者にならない、加害者にならないために、「安全」について改めて意識をしながら陸上を楽しみましょう。

▼詳細はこちら

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/19851/>



▼安全ナビサイト

<https://www.jaaf.or.jp/safety-navi/>



◆◆第108回日本陸上競技選手権大会のプロモーションビデオ第二弾公開！◆◆

2024年6月27日（木）～30日（日）に新潟・デンカビッグスワンスタジアムで開催する「第108回日本陸上競技選手権大会（パリ2024オリンピック競技大会 日本代表選手選考競技会）」のプロモーションビデオ第二弾が完成いたしました！



▼詳細はこちら

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/20078/>



▼日本選手権特設サイト

<https://www.jaaf.or.jp/jch/108/>



陸連時報編集委員

◇編集委員

- 尾縣 貢（陸連会長）
- 有森 裕子（陸連副会長）
- 風間 明（陸連副会長）
- 室城 信之（陸連副会長）
- 田崎 博道（陸連専務理事）
- 山崎 一彦（陸連強化委員長）
- 鈴木 英穂（陸連事務局長）
- 石井 亮（陸上競技マガジン編集長）

◇時報編集室責任者

- 石井 朗生
- ◇時報編集担当
- 日本陸連 広報課

陸連時報編集室

〒160-0013
東京都新宿区霞ヶ丘町4-2
JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階
日本陸上競技連盟内
TEL：050-1746-8410
FAX：050-3588-1869